

令和6年度
組合運営方針

泉北環境整備施設組合

管理者 辻 宏康

令和6年度 組合運営方針

令和6年泉北環境整備施設組合議会第1回定例会開催にあたり、組合管理者として組合運営の基本方針と主要施策の大綱を申し述べ、議員各位並びに組合市の市民皆様のご理解とご協力をお願いする次第でございます。

本年は甲辰（きのえたつ）年で、昨年まで努力してきたことが実を結ぶ、また、新たに取り組んだことが成就する年まわりだそうでございます。本組合におきましても、これまでの事業に加え、より広い分野で環境改善の役割を担う組織であることを認識しながら、業務に邁進してまいります。

さて、気候変動問題は、「もはや待ったなし」と言われ、常態化する異常気象や頻発・激甚化する災害は、人の命や経済活動における世界的に重大なリスクとなっています。また化石燃料をはじめとした物価の高騰は、人々の暮らしをおびやかしています。政府は、2050年までにカーボンニュートラルの実現をめざすと宣言し、2030年度には温室効果ガスを2013年度比で46%削減、

さらには50%に向けて挑戦を続けることを表明しています。

カーボンニュートラルへの挑戦が、産業構造や経済社会の変革をもたらし、日本全体の大きな成長につなげていくことが求められており、廃棄物・資源循環分野においても、温室効果ガス排出削減やカーボンリサイクルに取り組んでいく必要があります。

こうした中、本組合では、以下の事業を主要な事業と位置づけ、取り組んでまいります。

まず、し尿処理事業ですが、令和4年度に搬入されたし尿及び浄化槽汚泥量は、前年度より約516kl減の約3万5,840klとなりました。今後は、老朽化した施設を維持するための最低限の補修や法定整備を実施するとともに、令和9年度中の供用開始に向け、「汚泥再生処理センター」の整備工事に着手してまいります。新たに整備する汚泥再生処理センターでは、し尿及び浄化槽汚泥と学校給食から出る食品残渣を処理するとともに、脱水した汚泥を泉北クリーンセンターの助燃材として再利用いたします。また、脱水後の処理水から、枯渇資源のリンを回収するマテリアルリサイクル技術を採用することで、循環型社会の形成に取り組めます。なお、終末処理を流域下水

道で行うことで、二酸化炭素排出量の削減にも貢献いたします。

次に、ごみ処理事業ですが、資源化センターにおいては、市民皆様のご協力により、搬入される資源ごみの量が増加し、令和4年度は、約5,030トンの資源化を図ることができました。稼働以来、着実に再資源化を図っておりますが、令和6年4月からは、サントリーグループと協働し、家庭から収集する使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトル to ボトル」に取り組んでまいります。これにより、ペットボトル資源を繰り返し利用できることから、新たに石油由来原料からペットボトルを製造する工程と比較すると、二酸化炭素の排出量を60%削減することができます。

可燃ごみにおいては、市民皆様のご協力により、年々焼却ごみ量は減少しており、令和4年度には、前年度より約1,820トン削減の約8万320トンとなりました。ピークであった平成9年度の約12万5,000トンと比較すると、36%もの大幅な削減です。

ごみ処理施設につきましては、令和4年度、令和5年度で長寿命化のための基幹的設備改良工事を実施したことにより、主要設備の延命化を実施することができました。今後は、毎年実施する定期整備工事等において、設備ごとに経過観察を行い、支障が出た箇所から順次

改修する「事後保全」を基本とした施設保全計画を、適切に実行し、コスト削減を行ってまいります。

また、施設の更新事業におきましては、令和5年度から一般廃棄物処理施設の立地検討について、有識者等による検討委員会にてご審議いただいております。今後、その進捗状況は、適宜、ご報告をさせていただきながら、引き続き、立地検討業務を進めてまいります。

また、一般廃棄物の直接搬入につきましては、令和5年4月からの予約制導入に合わせて毎月1回、土曜日の搬入を実施しております。引き続き、施設内の混雑解消、安全確保に努めてまいります。

次に、ごみ発電事業ですが、環境価値の高い再生可能エネルギーとして、令和4年度には、約3億7,900万円の売電収入を得られました。再生可能エネルギーを活用した環境価値の向上、及びエネルギーの地産地消と地域の脱炭素化をめざし、地域資源である泉北クリーンセンター廃棄物発電の余剰電力について、令和5年度から組合市の公共施設に優先配分し、今後、経済的な効果も検証しながら、地域循環共生圏の形成に貢献できるよう取り組んでまいります。

次に、啓発事業ですが、「環境シンポジウム」や「泉北環境クリーンフェスティバル」、ごみ拾いとスポーツの要素を取り入れた「スポ

GOMI 大会」など、各種イベントやリユース事業を実施するとともに、組合広報紙「泉北クリーンセンターだより」、組合ホームページ等で、市民の皆様へ周知・啓発を進めてまいります。

今後も組合市と連携し、さらなるごみの減量化・4 R「リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル」の推進を図りながら、資源循環型社会の形成に向けて積極的に取り組んでまいります。

また本組合では、し尿処理施設やごみ処理施設の運転管理業務の委託化など、着実にアウトソーシングを推し進め、人件費の削減に取り組んできたほか、ごみ処分手数料の見直しや事業系ごみの有料化を実施し、効率的で効果的な組合運営を図るための行財政改革を行ってきたところであります。

今後、し尿処理施設の「汚泥再生処理センター」への更新、また、ごみ処理施設の1・2号炉の建替え更新を控えておりますが、これに加え、物価及び人件費の高騰が続いております。こうした中、徹底したコスト削減を図るとともに、あらゆる事務事業の見直しを行い、引き続き組合市と密接に連携を図りながら、持続可能な組合運営に取り組んでまいります。

令和6年度の当初予算を編成するにあたっては、国の循環型社会等の交付金制度を最大限活用することといたしました。

令和6年度予算（案）につきましては、一般会計30億9,805万4千円となっており、組合市にご負担いただく分担金につきましては、21億5,943万5千円となるものでございます。

結びになりますが、泉北環境整備施設組合を取り巻く様々な課題に対しまして、組合市の財政状況をしっかりふまえ、「最少の経費で最大の効果を」上げるべく、事業の効果、優先順位を見極め、真に必要な施策を進めてまいります。また、全域31万市民の環境を守るとともに、次世代のためにも、将来にわたって持続可能な、脱炭素社会・資源循環型社会を形成していく組織としての重要な使命と責任を認識しつつ、市民皆様からのご期待にお応えするために、引き続き、正副管理者と職員が一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、議員各位をはじめ、市民皆様のより一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。